

教職科目「教育実習事前指導」「教育実習」の実践記録

— 理科教員への志向性の向上を目指して —

大 舘 健 司

要 旨

教育実習は、大学段階で教職志向性が強化される絶好の機会であり、この教育実習での成果が、履修生のその後の教員志向性に大きく影響を与える。そのため、充実した実習となるよう事前・事後の指導は非常に重要である。本稿では、本学バイオ環境学部教職課程において、教育実習生が充実した教育実習を体験できることを目的とし、授業力や学級経営力の向上を目指した取組を紹介する。

1. はじめに

京都先端科学大学(以下、本学)では、教職課程の履修者が教師として必要な資質能力を養成するために、1年から4年までの成長を見通した適切なカリキュラムを編成し授業を進める一方で、教職課程指導室を中心に、学生1人ひとりに対応した支援体制を整えている。本学の教職課程では、理科教員養成に関連する必修科目として「理科教育法(I・II・III・IV)」「教育実習事前指導(I・II)」「教育実習(A・B)」が設置されており、学習指導用要領の理解や理科授業の在り方、教育実習の準備など、理科教育を行う上で必要な内容を幅広く指導している。筆者らは「教育実習事前指導(I・II)」では授業力の向上を、「教育実習(A・B)」では教育実習の事前・事後指導の充実を目指して授業を計画した。

2. 「教育実習事前指導(I・II)」の取組

新しい授業方法として理科教育法などの授業で模擬授業を取り入れた取組も開始されているが(川村ら 2012), 大学段階で授業力を身につけるために十分な機会を与えられているとは言い難い。本学では, この点を解決すべく3年次に通年で「教育実習事前指導(I・II)」を設置し, 一人の履修生が50分間の模擬授業を6回以上, 経験できるようにしている。

(1) 授業概要

各履修生は, 順に50分間の模擬授業を行った後, 検討会で授業や学習指導案について指導教員, 生徒役の履修生と研究協議を行う。さらに, 授業担当者は記録動画を視聴し, 課題を発見して次回に生かしていく。

学習指導案については2週間前までに担当教員に提出し, 個別指導を受ける。学習指導案を改善後, 模擬授業実施のためのシミュレーション授業を数回行い, 生徒役の履修生のアドバイスをもとに工夫改善を図って模擬授業本番に臨む。

(2) 実施方法

- ① 履修生(7名)を2班に分け, 年間をとおして各履修生が6回以上の模擬授業を行う。そのうち1回以上は, 観察・実験または実習を行うことを原則とする。
- ② 実施科目について, 中学校を希望する場合は, 「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」からそれぞれ1つ以上の領域を選択する。
- ③ 実物を持ち込んでの演示や実習, 視聴覚機器, PC・タブレットやカードを利用した視覚的教材やワークシートなどの工夫をして, 模擬授業に臨む。

(3) 模擬授業の準備

- ① 担当教員による学習指導案作成の指導は、主に Microsoft Teams を使用したe ラーニングスタイルで行う。
- ② 完成した学習指導案・板書計画等は、担当週の1週間前までに Teams の指定されたフォルダ内にアップロードしておき、参観者が閲覧できる状態にしておく。
- ③ 担当日の前には、模擬授業のシミュレーションを他の履修生の協力を得て必ず実施し、助言内容を指導案に反映する。複数回の実施が望ましい。
- ④ 授業に先立って、必ず先輩達の模擬授業の記録動画を指導室で視聴し、授業の要領をつかんでおく。

(4) 模擬授業当日の進行

- ① 頭髪・服装については、教育実習中と同様にきちんと整える。
- ② 授業のはじめ、終了時にはしっかり挨拶をして、はじめに必ず出席をとる。
- ③ 授業進行を自己判断で調整し、必ず50分で終了する。
- ④ 生徒役の履修生は、模擬授業中に「授業分析シート」に記入し、完成させておく。
- ⑤ 模擬授業終了後に、担当指導教員、授業担当者、生徒役の履修生で検討会を実施する。

(5) 模擬授業の振り返り

- ① 生徒役の履修生は、表1に示す内容で「生徒としての観点」からの評価を行い、「授業への意見」を授業分析シートに記入しておき、検討会で利用する。
- ② 模擬授業終了後、検討会を30分間実施して全参加者から感想・講評を聴く。最初に授業担当者が感想・反省点を述べ、感想・講評は受講

表1 「授業分析シート」の内容

生徒としての観点 からの評価	<p>以下の項目について5段階で評価</p> <ul style="list-style-type: none"> • 授業の始まりで、思わず授業に引き付けられたか。 • 先生からの指示や質問の意味は、分かりやすかったか。 • 授業の内容をよく理解できたか。 • 授業中、熱心に考えたか • 授業中で学んだことは、自分のためになったと思うか。 • この授業をまた受けてみたいと思うか。
授業への意見 (自由記述)	<p>学習指導案について 授業への意見</p> <ul style="list-style-type: none"> • 良かった点や参考にしたいこと、さらなる改善策について • 良くなかった点とその改善策

出典：筆者作成

表2 「個人反省・感想ノート」の内容

事前準備の反省・感想
学習指導案作成における反省・感想
参観者(履修生)からの批評で心に残ったこと
教員からの批評で心に残ったこと
ビデオで自分の授業を見ての反省・感想
次回の授業で生かしていきたい点

出典：筆者作成

生、参観学生、教員の順に行う。

- ③ 検討会終了後、授業担当者は全参加者の「授業分析シート」や模擬授業の動画を参考にして、「個人反省・感想ノート」(表2)を完成させ、模擬授業のまとめを行う。

(6) 模擬授業の内容

紙面の都合上、例として「教育実習事前指導Ⅰ」において中学希望履修生、高校希望履修生、それぞれが実施した模擬授業の内容を表3に示した。

表3 模擬授業の内容

履修生	実施回	領域・科目	実施内容
中学希望	1	エネルギー	*力による現象
	2	粒子	物質の表し方
	3	生命	動物の体のつくりとはたらき
	4	地球	語る大地
高校希望	1	化学	物質と化学反応式
	2	生物	動物の環境応答
	3	生物	*遺伝子変化と進化の仕組み
	4	生物	生物の多様性と共通性

出典：筆者作成

注：*は実験

(7) 授業評価アンケートおよび聞き取り調査の結果から

授業評価アンケートの結果では、ほとんどの学生が「大変役に立った」または「役に立った」と回答していたが、より詳細を知るため聞き取り調査を行った。

「実際に経験して大変さを知れたのでよかった」「最初はなることかと思ったが、やっていくうちに自信がついてきた」「教育実習前に実践的な授業をすることでよい経験になった」「学習指導案づくりに自信が持てた」など、本授業をとおして教育実習での授業指導に対して自信を高めた学生が多く見られた。なかには「指導案どおりにいかないことが多かった」「他の実験実習科目のレポートもあり、授業準備が大変だった」という声も聞かれたが、充実感を得ることで教職への意欲が高まったようである。

模擬授業後の検討会について「他人の意見を聴くことができてよかった」「他人に指摘されて初めて分かったことがある」などの回答があり、検討会を経た振り返りの過程が、自身の指導力を知るための貴重な機会となっている。

3. 「教育実習(A・B)」の取組

教育実習は、大学段階で教職志向性を強化できる数少ない機会となっているが(今永・清水 1994)、教育現場にうまく適応できない場合は、かえって教職志向性を低下させる原因にもなりうる。実習生への事前アンケートの結果では、「生徒とのコミュニケーションづくり」「学級経営」に不安を感じているものが多かった。教科指導に関しては「教育実習事前指導(I・II)」の授業で一定のレベルに達していると推測されるので、教育実習直前の指導では、主に学級経営に関して実践的な指導を経験させ、これらの不安の解消を目指した。

教育実習の事後指導では、教育実習の成果を実習の記録から分析し、自らの課題を明確にするために報告書を作成した。さらに、教育実習報告会の場でその課題解決策を意見交換し、よりよい解決策を探究した。ここでは令和5年度の取組(バイオ環境学部学生5名対象)を紹介する。

(1) 教育実習直前の指導

表4に示す内容で、学級経営において体験する場面での指導課題を与え、模擬指導を行った。終了後は指導教員、担当者、生徒役の履修生で検討会を実施した。

表4 教育実習直前指導の内容

実施日	指導内容
4月18日	①クラスでの生徒に対する自己紹介
5月9日	②朝の会模擬指導
5月16日	③帰りの会模擬指導
5月18, 25日	④進路講話(進路・生き方)

出典：筆者作成

① クラスでの生徒に対する自己紹介

実習初日の担当クラスでの挨拶は、はじめて生徒とのコミュニケーションを図ることができる大切な機会である。生徒が興味を示す内容を考えて、3分間で自己紹介の練習を行った。

② 朝の会の指導

以下の次第に則り、内容は各自で考えて10分間の模擬指導を行った。

ア 朝の会次第

- はじめの言葉(挨拶)
- 出席確認・健康観察
- 今日の予定
- 所連絡…各係・委員会から
- 今日の目標
- 先生の話
- おわりの言葉

③ 帰りの会の指導

次第の「1日の反省または先生の話」では、設定した2つのテーマから1つ選択して下記の内容で5分間の指導を行い、全体で10分間の指導とした。

ア 帰りの会次第

- はじめの言葉
- 1日の反省または先生の話
- 明日の予定
- 連絡
- おわりの言葉

イ 「1日の反省または先生の話」のテーマ

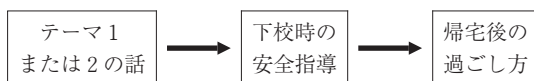
テーマ1または2を選択

テーマ1	1日の目標に向けての達成状況の確認
テーマ2	ある教科担当の先生から「忘れ物が多い」と担任に苦情が来た場合の指導

ウ 「1日の反省または先生の話」の内容

選択したテーマの話から、帰宅後の過ごし方までを順に指導する。

(5分間)



④ 進路講話(進路・生き方)

自身の大学生活や、進路決定と進路のアドバイス等、進路実現に向けての20分間の講話を考えて発表した。

(2) 教育実習後の指導

① 教育実習報告書の作成

実習の反省点と課題を浮き彫りにするため、教育実習報告書では表5に示す5つの内容において成果と課題をまとめた。

② 教育実習報告会

情報共有を行うことで指導力を向上させることを目的として、報告会を開催した。

実習生は表6に示す内容について、Power Pointで発表原稿を作成して報告会に臨み、全員の報告の後、検討会を実施し研究協議を行った。

実習生にとって、教育実習の集大成として自身の実習内容を報告することや他の実習生の実習内容を聴講することで、実習内容を振り返り、新たな知識・視点を獲得することとなった。今後、理科教員とし

表 5 教育実習報告書の内容

項目	内 容
1	生徒が主体的に学べる授業構成と授業づくりの工夫
2	一人ひとりを大切にする授業の進め方
3	一人ひとりを理解する重要性
4	クラス(学級)づくりの重要性
5	教職員から学ぶこと

出典：筆者作成

表 6 教育実習報告会の内容

項目	内 容
1	教育実習校の概要
2	教育実習の概要
3	教育実習中の時間割
4	教育実習中で目標
5	教育実習中の課題(達成度・成果・反省)
6	研究授業について
7	教科指導教員の教科指導から得たこと
8	学級担任の学級指導から得たこと
9	実習を終えての感想および教員志願への気持ち
10	教職課程の後輩に伝えたいこと

出典：筆者作成

て成長するための目標を明確にし、目標を達成するための具体的な取組を促すことにつながることを期待される。

(3) 教育実習後のアンケート

教育実習報告会后、アンケート調査を実施した。

① アンケート方法

「教育実習に関する評価」と「自己に係る評価」について「1. 強

くそう思う」「2. まあそう思う」「3. どちらともいえない」「4. そう思わない」「5. 全く思わない」の5件法による回答を求めた(表7, 8)。「教育実習の振り返り」については、各質問について自由記述方式で回答を求めた(表9)。

② 結果

ア 教育実習に関する評価

表7に示した8つの項目で自己評価を行った。

教育実習前の準備については、全員がしっかりと行い、教育実習に意欲的に臨んだことが窺える。教科指導面では、学習指導案の作成に関しては、概ね満足のいくものが作成できており、計画通りに授業が進行したようである。実習生が実習前に心配していた「生徒

表7 教育実習に関する評価

質問項目	強く思う	まあ そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	全く 思わない
1 教育実習に行く前の準備は十分に行った	1	4			
2 十分に教材研究を行い、授業に臨んだ	2	3			
3 熱意をもって、教育実習に取り組んだ	5				
4 学習指導案は満足のいくものが作成できた	2	2	1		
5 計画どおりに授業をすることができた		4			1
6 積極的に生徒に接し、コミュニケーションを図られた	1	4			
7 指導教員とは、うまく人間関係が構築できた	2	3			
8 実習ノートなど提出物の提出期限を守った	3	2			

出典：筆者作成

や指導教員とのコミュニケーションづくり」については、概ね良好な人間関係が築かれており、教育実習直前での「朝の会」や「帰りの会」などの模擬指導の成果が表れている。

イ 自己に係る評価

表 8 に示した 5 つの項目で自己評価を行った。

すべての実習生が、「授業の指導力や学習指導案の作成能力が向上した」と回答しており、教育実習中に自身の成長を感じることができている。また、教育実習をとおして教職への志向性が強化されていることが窺える。

ウ 教育実習の振り返り

表 9 に示した 4 つの質問項目について、自由記述で回答を求めた。

質問 1 の「教育実習中に困ったこと」では、「ロイロノートの使用や Kahoot などの ICT 機器の活用」という回答があり、ICT 機器への対応の遅れが指摘された。実習先で使用されているそれらの ICT 機器を本学の授業では導入しておらず、今後の課題である。質問 2 の「事前の指導で役立ったこと」では、「教材・教具の作り方を学習したこと」「進路講話の練習」「学習指導案の書き方をマス

表 8 自己に係る評価

質問項目	強く思う	まあ そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	全く 思わない
1 教育実習中に授業の指導力が向上した	3	2			
2 教育実習中に学習指導案の作成能力が向上した	3	2			
3 教育実習に行ったことで、教職に関心が強くなった	5				
4 教育実習は今後の人生にとって貴重な体験となった	5				
5 大学卒業後は教職関係に就職したい	5				

出典：筆者作成

注：数値は人数

表9 教育実習振り返りの質問内容と回答例

質 問	回 答 例
質問1 教育実習中に困ったこと	ロイロノートの使用や Kahoot! などの ICT 機器の活用
	最初は、生徒があまり授業に乗ってこなかったこと
	生徒達と最初はどのような距離感で接するのが、分からなかった。
	教科指導教員が休まれたので、臨時の授業を急遽任されたこと 教材・教具の作り方を学習したこと
質問2 事前の指導で役に立ったこと	進路の講話の練習。初日の帰りの会で、いきなり進路の話をすることになったので直前指導の授業で準備をしておいて、「本当に良かったと思う。 指導案の書き方をほぼ、マスターしておいたこと
質問3 教育実習校の受け入れ体制はどのように感じたか	自分の母校であることを伝えると、快く受け入れてもらえた。 安心して教育実習に参加できるような体制であった。 学校行事など生徒との交流を深められるイベントもあった。 生徒の前で話す機会を多く設けていただいて、生徒に受け入れやすくしていただいた。
質問4 後輩達へのアドバイス	準備したことは必ず役に立つので100%で満足せず、200%以上を準備するとよい。
	どの範囲を受け持つのかを聞いていく前に指導案を作っておく
	生徒とのコミュニケーションを積極的にとること。
	ICTを活用した授業だけでなく、ICTが使えなかった時の授業も考えておくこと
	教職課程の仲間とともに授業研究をして、自分なりの授業を確立しておくこと

出典：筆者作成

ターしたこと」という回答が得られた。このことから、事前に実施した「教育実習事前指導(I・II)」での学習指導案作成、「教育実習(A・B)」での直前指導など、それぞれの取組が成果を上げているものと考えられる。質問3では、実習生全員が教育実習先に快く受け入れられており、様々な配慮をしてくださっていることが窺える。質問4では、実習生自身の経験を基に事前準備の大切さを指摘しており、後輩に貴重なアドバイスとなっている。

5. おわりに

2021年に文部科学省は、『令和の日本型学校教育』を担う教師の人材確保・質向上プラン」を取りまとめ、その中で教員の魅力を上げ、教師を目指す人を増やすための方策として、学校における働き方改革の推進や教師の処遇の在り方の検討を挙げている。この2つの方策を実行することで、採用試験の倍率の上昇につながることは期待できる。しかし、それらの方策の目的は、労働環境面のみでの改善であり、それだけでは、教師のやりがいやあこがれといった前向きな感情を強化することや、教職に対する使命感や責任感を醸成することは困難である。その意味でも、大学の教職課程においては、教職の魅力向上ためにそれらの感情を強化するよう、授業内容を改善していくことが求められている。今後は、コロナ下で果たせなかった、大学の学びと連動した学校体験活動や現職教師との交流会など、教育課程内外にわたって様々な取組や工夫を行い、理科教員志望者の志向性を維持・向上させてゆきたい。

引用文献

- 川村康文・田代佑太(2012)「理科教員養成における模擬授業の効果に関する研究」科学研究36(1) 44-52
- 今永国晴・清水秀美(1994)「教育実習が教員志望動機に及ぼす影響—事前・事後測定法による分析—」日本教育工学雑誌17(4) 185-195
- 文部科学省(2021)『令和の日本型学校教育』を担う教師の人材確保・質向上プラン」

**Practical records of teaching subjects
“Pre-teaching guidance for pedagogical
practice” and “Pedagogical practice”:
Improving candidates’ orientations
towards becoming instructors in the sciences**

ODATE, Kenji

Abstract

Pedagogical practice is an excellent opportunity to reinforce orientation toward teaching during the university level of study, and the results of this practice have a significant impact on students' subsequent orientation toward teaching. Therefore, pre- and post-teaching is of critical importance to ensure that such practical training is effective. In this study, we introduce the measures taken to improve the teaching and classroom management skills of teaching practicum students in the education program of the Faculty of Bioenvironmental Sciences at the Kyoto University of Advanced Science, with the aim of enabling them to experience an impactful teaching practicum.